

## 平成 24 年度 博士前期課程学位論文要旨

脳血管障害者が外来リハビリテーションに通い続ける理由  
—都内リハビリテーション病院の外来作業療法利用者を対象として—

学位の種類： 修士（作業療法学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域

学修番号：11896604

氏名： 鈴木絵里子

（指導教員名： 小林法一 教授）

注：1,000 字程度（欧文の場合 300 ワード程度）で、本様式 1 枚（A 4 版）に収めること

## 【目的】

本研究の目的は、東京都内のリハビリテーション病院の外来作業療法（以下、OT）を長期に渡って利用する患者の外来通院理由の特徴を明らかにし、外来リハの役割を検討することである。

## 【研究 1】

対象は、当院に長期に渡って通院する脳血管障害者 9 名であった。外来リハに通う目的や希望することについて尋ねる半構成的面接を行い、内容を KJ 法に準拠して分析した。その結果、「機能が元通りになるという目標」を持ち続けながらも、不安や葛藤を抱え、「他者と関わることで精神的な安定」を得て、今後の可能性を探るために「専門職から情報を得ること」を期待し、そのような生活を続けることで「外来通院が生活の一部となる」という、4 つの大カテゴリーからなる外来リハ通院理由の構造が浮かび上がった。

## 【研究 2】

研究 1 の結果をもとに外来通院理由を問う 47 の質問項目を作成し、アンケートを実施した。32 名（男性 16 名、平均外来通院期間は  $25.6 \pm 16.9$  ヶ月）から回答が得られた（回収率 88.9%）。4 段階で聞いた通院理由において、全般的にどの項目も「とても当てはまる」、「当てはまる」に 50% 以上の回答があった。「とても当てはまる」という回答が 50% 以上だった項目は、「運動機能の回復を期待して通院している」回答割合 78.1%、「できる行為を増やしたい、よりスムーズにできるようになりたい」78.1%、「できるだけいいリハビリを受けたい」75.0%、「上肢、下肢の訓練を受けたい」68.8%、「スタッフが自分自身のことをよくわかってきているので安心感がある」53.1%であった。確認的因子分析（重み付けのない最小二乗法、プロマックス回転）の結果、通院理由として 5 つの因子が確認された。

## 【考察】

研究 2 の結果は研究 1 の結果を支持するものであった。これらの結果を踏まえて、外来リハには大きく 2 つの役割があると考えられた。一点目は、対象者を地域に繋げる支援をより積極的に進めていく役割である。特に、長期に渡って外来リハに止まる利用者には、医療から地域へと環境を段階的に変化させる工夫や新しい楽しみややりたいことを一緒に見つけていく支援、介護保険制度や利用者が暮らす地域の社会資源についての情報提供をすることが必要であると考えられた。二点目は、外来リハであればこそ提供できるサービスは継続し、かつ、それを必要としている方に提供できる体制を整えることである。例えば、専門職が対応する相談窓口としての役割が担えるように、低頻度でも外来リハを継続できる制度作りが必要であると考えられた。